

# 働く大人に育てるために

～家庭と学校の共働をめざした進路だよりの改善

熊本県立荒尾支援学校

## ■「育てる」視点の重要性

特別支援学校におけるキャリア教育は、障がいのある児童生徒のキャリア発達を踏まえて、「働く」生活の基礎（健康な暮らし、身の回りの自立、良好な対人関係等）を、早期から正しく的確にひとつずついねいに教えていくことが重要です。

また、障がいのある児童生徒に対する「勤労観」の育成に当たっては実体験が最も有効であることから、早期から他者の「役に立つ」体験をたくさん積み重ねる必要があります。これに重要な役割を果たすのが家庭であり、家庭・学校は、連携共働してキャリア教育を推進する必要があります。

このことを踏まえて本校では、子どもの発達を支える家庭教育の重要性を啓発し、早期からの家庭と学校の共働をめざし、啓発リーフレットの作成と活用、並びに情報提供支援の強化（進路だよりの改善）に取り組んできました。本稿では本年度の取組の概要をお知らせします。

## ■キャリア教育リーフレットとは

本年度から本校研究部・進路指導部の連動によって、家庭向け啓発資料としてのキャリア教育リーフレットが作成されました。

A4版両面印刷のリーフレットは、実際の面談・教育相談で使用することを想定し、キャリア発達の段階的育成や家庭教育の重要性を啓発する内容（図1）の他、キャリア発達と関連のある行動のチェックリスト（図2）も盛り込み、説明と同時に御家族が簡易にお子さんのキャリア発達を確認できるように作成されています。

実際本年度初めの家庭訪問や、個別教育相談時の資料として全家庭で使用されました。

図1 リーフレットで家庭教育の重要性を啓発

図2 キャリア教育チェックリスト

## ■情報提供支援としての進路だよりの在り方を探る

卒業時の適切な進路選択を実現するためには、生徒・保護者への早期からの計画的な情報提供支援が有効な手立てです。

そのためには当然、職員一人一人の進路情報に係る研鑽も欠かせません。そこで本年度4月に本校職員向けアンケートを実施し、教職員自身が「知りたい内容は何か。」「保護者に伝えたいと考えている情報は何なのか。」の調査を実施しました。

その結果を踏まえて表1の執筆内容・執筆分担年間計画を作成し進路だよりのリニューアルを図りました。

記事の構成は、連載としての「福祉基礎講座」「キャリア教育基礎講座」および進路関連行事等の紹介記事としています。特にキャリア教育基礎講座は7回連載とし、「働く大人」に育てるための基本的考えや方策についてわかりやすく伝えるよう努めています。

進路だよりの執筆年間計画 荒尾支援学校進路指導部

	記事の構成		
	連載 福祉基礎講座	連載 キャリア教育基礎講座	特別記事 トピック等
4月	社会資源マップ紹介		学校長挨拶
5月	都合により休刊		
6月		【連載1】 「はたらく大人」に育てる意味	【同窓会】 同窓会の概要(中田)
7月①	相談支援事業について ～相談支援は人生のプランナー～	【連載2】 いつからやるの?「今でしょ!」 ～身辺自立+社会適応行動～	
7月②		【連載3】 ご家族のモチベーション ～教えましょう家事全般～	高等部の実習(寺崎)
9月	福祉サービス利用の流れ ～大切な流れを知っておこう～		【同窓会】 総会報告(豊野)
10月		【連載4】 自立度が進路を広げる ～支援と福祉サービス～	進路研修のまとめ(原口)
11月	お子様とサビスのマッチング①(A?B?) ～選んだサビス判断のめやす～		高等部の実習(谷口)
12月		【連載5】 「余暇」はオアシス ～働き続けるために～	【同窓会】 ボウリング大会(矢澤田)
1月	お子様とサビスのマッチング②(移行支援) ～チャレンジできる2年間～	【連載6】 「金銭管理」のすすめ ～がまたしたるを上手に使う～	
2月	暮らしを支える ～障害+介護と生活保障～		【同窓会】 成人のつとめ(村上)
3月		【連載7】 卒業生保護者に関わりました。 ～在りながらやって良かったこと～	進路の概況 本校の進路指導

表1 進路だよりの執筆年間計画

※バックナンバーは、<http://sh.higo.ed.jp/arao-s/進路室/>

## ■中間評価～保護者アンケートの実施～

前期終了の11月、保護者評価アンケートを実施しました。アンケート回答率は53.6%。この種のアンケートにしてはまずまずの数字で、保護者の「進路情報」への関心の高さが窺えました。

内容に関しては、86%が「よい」以上の評価であり、今年度の改善目的はほぼ

達成されています。また、自由記述欄に記載された保護者の声には特に「キャリア教育基礎講座」の内容について、その趣旨を汲み取ったコメントが多く、進路だよりの発行が、家庭・学校が連携協働したキャリア教育の推進に寄与する可能性を感じるものでした。

## ■おわりに

「家庭は子どもの発達を支える基地である。」という言葉があります。その教育力を一層高め、学校と連携協働することで教育効果は何倍にもなると考えます。中間評価でいただいた保護者の感想や要望を踏まえてさらなる紙面の充実につなげ、本校のキャリア教育の深化を図っていききたいと考えています。

### <アンケート自由記述の抜粋>

- ・キャリア教育基礎講座は、特に毎回何度も読ませていただいています。
- ・学校ばかりに頼るのではなく、家庭での生活が将来へつながることが多いと思います。その中で学校の先生方との関係をとることで子どもたちの生きる力が身につくのではと思います。
- ・目の前の子どもの姿だけ見ていると、将来を考える事に後ろ向きになりがちですが、文章を読みながら今出来ることは何かこれから何が出来るか考えさせられます。
- ・将来に向けて今出来ることを考えさせてもらういいきっかけになっています。
- ・毎回A4両面に進路指導の先生方が保護者の私たちに目一杯伝えてくださる熱意が感じられます。